

開講科目名	特別演習(09)		
担当教員	建築学各教員	開講区分	単位数
		通年	3単位
授業のテーマと目標			
<div style="border: 1px solid black; height: 80px;"></div>			
授業の概要と計画			
<div style="border: 1px solid black; height: 80px;"></div>			
成績評価方法と基準			
<div style="border: 1px solid black; height: 80px;"></div>			
履修上の注意(関連科目情報等を含む)			
<div style="border: 1px solid black; height: 80px;"></div>			
オフィスアワー・連絡先			
<div style="border: 1px solid black; height: 80px;"></div>			
学生へのメッセージ			
<div style="border: 1px solid black; height: 80px;"></div>			
テキスト			
<div style="border: 1px solid black; height: 80px;"></div>			

参考書・参考資料等

--

開講科目名	特定研究(09)		
担当教員	建築学各教員	開講区分	単位数
		通年	8単位

授業のテーマと目標

研究科規則に従い、学生の研究能力を高めるために、学生ごとに特定の研究課題を設けて演習を行う。

授業の概要と計画

各修士論文テーマに基づき、指導教員が実施する。

成績評価方法と基準

修士論文研究課題に関する中間報告をもって特定研究課題提出とする。評価項目に関する目安は、演習の内容に意欲的に取り組み十分に理解して修士論文テーマに適用可能な知識を取得したと判断できる場合を優、演習の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、演習内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	研究指導(09)		
担当教員	建築学各教員	開講区分	単位数
		通年	
授業のテーマと目標			
特定研究に従う．			
授業の概要と計画			
特定研究に従う．			
成績評価方法と基準			
特定研究に従う．			
履修上の注意(関連科目情報等を含む)			
特定研究を同時に受講すること．			
オフィスアワー・連絡先			
随時連絡のこと．			
学生へのメッセージ			
テキスト			
特に無し．			
参考書・参考資料等			
各教員で指導．			

開講科目名	インターンシップ		
担当教員	建築構造系教員、建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	4単位

授業のテーマと目標

建築事務所、建築構造事務所など、建築設計の補助業務を通じて意匠設計、構造設計、設備設計等の各領域がどのような連携して一つの設計が成り立っていくのか、さらに企画・構想段階から、基本設計、実施設計、積算、監理にいたる設計活動全般を経験し、職能上必要な知識が何かを把握することを目指す。具体的には、それぞれの分野、段階に対応した設計図書を把握する他、建築素材の理解、構造と工法、建築法規と職能の理解等、設計活動の基本を習得することを目指す。

授業の概要と計画

指導教員と相談の上、主として大学院1年次の間に、45時間を1単位として、実際の活動計画を作成し、活動後には複数の教員による報告会を行い、適切な単位を与える。派遣する事務所は、建築設計の実務実績のある一級建築士で、本大学院が指導者としてふさわしいと認めた者に限定する。

成績評価方法と基準

成績はインターンシップを行った組織からの報告と学生の発表、レポートなどによる報告を評価し、60点以上を合格とする。実績が充実しているものに対し優、平均的なものに対し良、最低限のものを可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)
 ・この科目は、大学院で受講する専門分野(計画系および構造系)の科目・演習・実習と呼応して、学外の建築設計事務所等において、より実践的な知識と経験を習得するために開講するものであり、研究活動を阻害しないことを条件として指導教官の許可を得て受講することができる。単位の認定は、学科の認定委員会により受講者が行ったインターンシップの内容と時間数に応じて4単位を限度としておこなう。
 ・本科目は一級建築士の受験資格である実務経験2年のうちの実務1年の認定に必要な科目であり、計画系および構造系に所属する学生のみを対象としている。指導教官の許可のない履修は単位として認めないので注意すること。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

- ・インターンシップの履修計画等については年度初めのガイダンスにおいて説明するので出席すること。
- ・授業や研究室活動に無理のない計画を立て、指導教員とよく相談して履修すること。

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	インターンシップII		
担当教員	建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	

授業のテーマと目標

インターンシップの単位修得後の科目として位置付けている。建築事務所に出向き、実際の建築設計活動がどのように大学院で学ぶ学問領域と対応し、それぞれの理論がいかに応用されているかを習得する。具体的には建築設計の補助業務を通じて設計プロセスの各段階で行われる作業を経験するとともに、事務所の手がけた作品と設計図書を通じて下記のような訓練もあわせて行う。1敷地や与条件を調査し整理する能力、2設計のコンセプト理解し実際の作品にどのように具体化されているかを分析する能力、3設計図書を読み解き、実際の建物、空間、デザインを想起できる能力、4図面の役割を理解し、作成する能力、5ディテールや納まりについての理解、6構造と意匠の関係についての理解、7素材や建築材料についての知識、8プレゼンテーションの役割と方法、など設計に必要な能力の涵養を目指す。

授業の概要と計画

指導教員と相談の上、主として大学院2年次前期までの間に、45時間を1単位として実際の活動計画を作成し、インターンシップ終了後には報告会を行う。活動後には複数の教員による報告会を行い、適切な単位を与える。派遣する事務所は、建築設計の実務実績のある一級建築士で、本大学院が指導者としてふさわしいと認めた者に限定する。

成績評価方法と基準

成績はインターンシップを行った組織からの報告と学生の発表、レポートなどによる報告を評価し、60点以上を合格とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)
 ・この科目は、インターンシップと合わせて一級建築士の受験資格である実務経験2年の認定に対応する科目であり、大学院で受講する専門分野(計画系)の科目・演習・実習と呼応して、学外の建築設計事務所等において、より実践的な知識と経験を習得するために開講するものである。単位の認定は、学科の認定委員会により受講者が行ったインターンシップの内容と時間数に応じて10単位を限度としておこなう。
 ・活動後には複数の教員による報告会を行い、適切な単位を与える。
 ・活動内容は幅広く経験を積むことも、特定の設計活動に限定して深化させることも可能であるが、事前に受け入れ事務所および指導教員とよく相談し、適切に計画を立てること。
 ・計画系に所属する学生のみを対象としているが、単位修得に必要な時間数が膨大であるので、他の科目履修や研究活動に無理のないことを条件に、指導教官の許可を得て受講することができる。指導教官の許可のない履修は単位として認めないので注意すること。
 ・インターンシップを単位取得した計画系の学生に限る。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

・空間デザインおよび建築計画・建築史大講座に属する教員の研究室に所属する計画系分野を主専攻とする学生に限る。
 ・インターンシップの履修計画等については年度初めのガイダンスにおいて説明するので出席すること。
 ・授業や研究室活動に無理のない計画を立て、指導教員とよく相談して履修すること。

テキスト

参考書・参考資料等

--

開講科目名	インターンシップⅢ		
担当教員	建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	4単位

授業のテーマと目標

学内専任教員によるインハウスのインターンシップである。建築設計活動の実践領域と同等と見なせる課題を与えて指導を行うか、または実際に進行しているプロジェクトに参加させて実践的な能力を養う。実践的に課題に取り組むことによって、建築設計にかかわる学理や思潮、工学技術・素材、設計者としての倫理などを能動的に習得することを目指す。学内教員は、一級建築士の資格を有する実務経験者が担当する。

授業の概要と計画

大学院で受講する専門分野(計画系)の科目・演習・実習と呼応して、研究室単位で行っている設計・監理に関する活動を担うことにより、より実践的な知識と経験を積むために開講するものである。

成績評価方法と基準

単位の認定は、学科の認定委員会により研究室の活動と受講者が行ったインターンシップの時間数と内容を踏まえて4単位(180時間程度)を限度としておこなう。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

(一級建築士実務資格認定科目)
 ・空間デザイン、建築計画・建築史大講座に属する教員の研究室に所属する計画系分野を主専攻とする学生に限る。
 ・この科目は、インターンシップⅠ、Ⅱを補完する科目であり、一級建築士の受験資格である実務経験2年の認定を得る必要があると認められる計画系に所属する学生のみを対象としている。
 ・本科目は研究室を単位とする活動に即して開講するために、開講時期は不定期であり、事情により開講できない場合があるので、インターンシップの単位修得は原則インターンシップⅠ、Ⅱで行うこと。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

- ・インターンシップの履修計画等については年度初めのガイダンスにおいて説明するので出席すること。
- ・授業や研究室活動に無理のない計画を立て、指導教員とよく相談して履修すること。

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	建築構造ゼミナール		
担当教員	建築構造系教員	開講区分	単位数
		通年	2単位

授業のテーマと目標

構造実験や構造解析を通して、構造設計あるいは監理の実務に関する高度な技術の向上を計る。

授業の概要と計画

構造系の各研究室の担当教員の指導のもとに、構造実験や構造解析を行い、レポートを作成する。構造実験や構造解析は各自の研究テーマに即したのものから選ぶが、これらをより実践的なものとするために、実験パラメータの抽出や解析モデルの作成あるいは構造材料の特性などがどのように構造設計あるいは監理の実務と関係しているかを整理・考察し、進行に合わせて適宜ゼミで発表する。

成績評価方法と基準

各指導教員による認定の他に、構造系教員全員が出席する発表会により、単位認定する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

2009年度は開講しない
(一級建築士実務資格認定科目)
少人数教育を前提とするため、空間デザイン、および構造工学講座に所属する構造系分野の学生に限る。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

授業中に適宜提示する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜提示する。